

ごもだちのつぎちゃん

「ごもだちのつぎちゃん」を読んだ

20年 S・Kくん

ぼくはこの本を読んで、友だちって何だろう、とたく山かんがえました。

ぼくには気のあう友だちが何人かいます。さつきちゃんとときちゃんみたいに名前も生まれた月もせいかくもみんなちがいます。だから、ぼくがかんがえつかなかったおもしろい話をしてくれてわらったり、ぼくがにが手なことが上手ですごいなと思ったり、ぼくとかんがえていることがぜんぜんちがくて何でだろうと不思議に思ったり、ときどきかなしくなるときもあります。毎日一しよに学校で生活をしているといろんなことをかんじるけれど、友だちはみんなちがうんだなと思えました。そして、ちがうのはすてきなことだなと思えました。

さつきちゃんとはきちゃんとせいかくがぜんぜんちがうけど、いろいろなものをじっくり見るときちゃんのをばにいたら、さつきちゃんもいつの間にかおなじことをしてうれしい気もちになっていました。コスモスがゆれる秋の空を見たときに「きれい」と言ったさつきちゃんは、きつとときちゃんにありがとうの気もちでいっぱいだったと思います。ときちゃんと友だちじゃなかったら見ることはできなかったと思います。きれいな空をプレゼントしてくれたときちゃんはとってもすてきな女の子だと思いました。

いろんなことをよく知っていることも、話をするのが上手なことも、生きものや花にきょうみをもってじっくり見てかんがえることも、ぜんぶすてきなことです。かんがえてみたら、ぼくの友だちも一人一人すてきなものもっています。だから友だちといるとたのしいんだな、と思いました。そしてぼくも友だちにそう思ってもらえるようになりたいです。これからもずっと友だちを大じにしたいです。